

町会・自治会だより

しかはま

- 鹿浜地域で多文化共生
- 全子連表彰・押部子ども会
- 血沼小創立40周年記念式典
- 食育で感謝状・鹿西小
- 町会・自治会だより
- 町会・自治会加入のおすすめ
- 新校長あいさつ
- 公園散歩
- オウム対策協へ支援金贈呈
- 女子医大オープン

主催・発行／足立区鹿浜地区町会・自治会連絡協議会
 編集／編集委員会
 鹿浜6-8-1 鹿浜区民事務所内
 TEL 03-3853-2301

しかはま ち いき た ぶん か きょうせい
鹿浜地域で多文化共生

た ぶん か きょうせい すいしん
「多文化共生」を推進しましょう



にほん く がいこくじん ねんねん ぞうか しかはま ち いき さまざま こくせき ひと す
 日本で暮らす外国人は年々増加しており、鹿浜地域にも様々な国籍の人が住むようになりました。

ねんご ねん とない にん ひとり がいこくじん い ちいき
 20年後の2040年には、都内の10人に1人が外国人になるとも言われています。これからの地域

さまざま ひとびと いっしょ あんしん せいかつ ひつよう しゃかい
 においては、様々な人々が一緒に安心して生活できるようになることが必要であり、そのような社会

た ぶん か きょうせい しゃかい よ
 を「多文化共生」社会と呼んでいます。

たし くに ことば しゅうかん ちが しかはま ち いき じゅうみん ちいき きも く
 確かに国によって言葉や習慣が違います。しかし、鹿浜地域の住民として、地域で気持ちよく暮ら

おも おな
 したい思いは同じです。

こんかい しかはま ち いき た ぶん か きょうせい しょうかい おも
 今回は鹿浜地域での多文化共生を紹介したいと思います。

鹿浜菜の花中学校の「なのしかフェスティバル」での取り組み



▲なのしかフェスティバルの様子

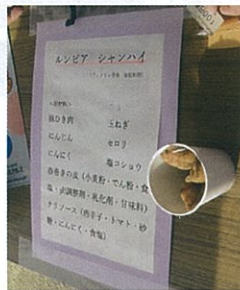
鹿浜菜の花中学校統合時から行われている「なのしかフェスティバル」に初めて「アジアブース」を出店したのは平成30年度のことです。

保護者の中に外国人の方が多くなってきたことから保護者同士や先生方、地域の方々とのコミュニケーションをとってもらうきっかけ作りのために始めました。

数名のフィリピン出身のお母様方の協力を得て、フィリピンの家庭料理「ルンピア（春巻き）」を作り、大好評をいただき2年連続で行うことができました。

これから活動を広げたいと思っていた矢先にコロナ禍となってしまう、続けることができなくなってしまったのが残念です。

(鹿浜菜の花中学校PTA)



▲フィリピン家庭料理ルンピア（春巻き）



▼外国人の方が分からないことがあって困っている時に参考にしてください。

多文化共生ポータルサイト「Life in Tokyo」

<https://www.lifein.tokyo.jp>

東京都の暮らしに関する情報を提供するホームページです。

鹿浜地域で暮らす外国人の方に日本での生活について話を聞きました

私は33年前にフィリピンから来日しました。日本語は生活をしながら覚えました。日本語学校には行っていません。ひらがな・カタカナは読めます。漢字が読めないのが、役所からの手紙などは日本で教育を受けた子どもたちが読んでくれます。日本国籍を取るには日本語のテストがあるので私には取れません。

今働いている会社にはフィリピン人が多く、その人たちとの交流が多いです。日本人の友だちはあまりいません。日本人とは、感情表現の違いや習慣の違いを感じることがあります。

自治会の活動は、できることはお手伝いしています。4月から集金係と防犯委員をやっています。団地に住んで19年になるので、仲良くしてくれる人もいます。（鹿浜団地自治会 キラタン・ルシーラ）

多文化共生に向けて心がけたいこと



外国人の人たちとどうしたら仲良くできるのか？ご近所と仲良くするのは、日本人同士でも難しいことがあります。あいさつをするなど、少しずつお話をすることからお互いを知るきっかけになることがあります。外国人の人たちと仲良くなるきっかけも同じではないでしょうか。

鹿浜団地自治会では、月1回の一斉清掃を行って、住民の皆さんの参加を呼びかけています。外国人世帯の皆さんにも声かけしますが、言葉が通じないことがあります。そんな時は子どもさんに通訳を頼みます。声をかけ続けることで、少しずつ参加してくれるようになった世帯もあります。

菜の花中の「アジアブース」も良いきっかけだったと思います。

あいさつはご近所の人とのつきあいの最初の一步。外国人のご近所さんと気軽にしゃべりしてみてください。（編集委員 豊岡 多恵子）

全国子ども会の表彰を受賞



▲ドッジボールチーム

この度、押部子ども会が全国子ども会連合会より令和3年度優良団体として表彰していただき、あわせて押部子供育成会も感謝状をいただくことができました。

押部子ども会は押部町会内の子どもが約130名参加して活動をしています。子ども会内には学童野球チームとドッジボールチームがあり、日々練習をしています。昭和46年の発足以来、毎年開催している運動会等の催し物をはじめ、毎月の資源回収など押部町会と連携して行っている地域活動などを評価していただきました。

本年度は11月に2年ぶりに運動会を開催することができ、久しぶりに子どもたちの笑顔がたくさん見ることができました。

これからも子どもたちの笑顔のため、力を合わせて時代に合う活動を続けていきたいと思えます。(押部子供育成会 本部長 高橋 久生)



▲学童野球チーム



▲元気な子どもたち (全体写真)

皿沼小創立40周年 記念式典を挙行

皿沼小学校が創立40周年を迎え、令和3年11月13日に記念式典が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、祝賀会を行うことはできませんでしたが、記念式典には近藤やよい足立区長をはじめとする来賓の方々にご臨席いただきました。

これは、ひとえに横田夏夫協賛会会長、加藤雅弘校長先生や先生方、仲野政則PTA会長をはじめとする地域の方々からの温かいご理解、ご協力のおかげです。また、記念事業を進めるにあたり、皿沼町会・皿沼東町会・加賀町会・都住加賀二丁目自治会より多大なご尽力ご援助をいただきました。深く感謝申し上げます。

創立40周年を記念して記念誌「さらぬま」を作成しました。その中で「加賀・皿沼地域の歩み」として古墳時代から現代に至る皿沼小学校の歴史を紹介しています。加賀・皿沼地域を含む足立区西部が、江戸時代に徳川家から上野の寛永寺に寄進され、神様の領地を意味する「御神領(ごじんりょう)」と呼ばれる特別な地域であったことを知ることができました。

このような歴史ある皿沼小学校が、ますます発展することができるよう今後も支援していきたいと思えます。

(皿沼小学校 創立40周年記念事業実行委員会 実行委員長 榎本 長行)



▲創立40周年記念誌

「食育」普及活動を評価 東京都教職員互助会より感謝状

令和4年1月13日、鹿浜西小学校開かれた学校づくり協議会では、「第18回ふれあい感謝状21」の特別賞を受賞しました。主催は（公社）東京都教職員互助会と（公財）日本教育公務員弘済会。

鹿浜西小学校開かれた学校づくり協議会では長年にわたり「栄養バランスを考え、自分で簡単な和食をつくらう」を合言葉に食育教育をしてきましたが、「子どもたちの健全育成のため栄養バランスの良い食事の普及に努力している」ことが体験活動・社会貢献活動部門で評価され今回の受賞となったものです。

当日は、野辺陽子協議会会長、瀧満裕鹿西小副校長が参列し、受賞しました。

（鹿浜西小学校 副校長 瀧 満裕）



▲贈呈式での野辺会長（右）と瀧副校長（左）

町会・自治会だより

鹿浜地区の12町会・自治会の活動の様子を写真でお伝えします。

今回掲載できなかった町会・自治会もありますが、早くコロナ禍が終息してすべての町会・自治会から活発な活動の様子をお伝えできるようになることを願っております。



鹿浜押部町会・建て替えを待つ八幡神社（令和4年中建て替え予定）



鹿浜東町会・ごみゼロ清掃活動



鹿浜古内町会・町会旅行（2017年）。楽しい旅行を再び…



鹿浜靴屋町会・公園清掃



血沼町会内・足立区花の散歩路西コース 加賀血沼・花の友 花植え



椿町会・お祭り



都住谷在家団地自治会・公園清掃



鹿浜団地自治会・年末夜警



上沼田第三アパート自治会・団地建て替えの様子



北鹿浜第二都住自治会・避難所訓練



日本住宅公団江北六丁目団地自治会・新年のお餅の配布



都住加賀二丁目自治会・年末パトロール（初日メンバー）



町会・自治会へ加入しましょう

町会・自治会は区市町村の各地域に置かれており、その地域の住民によって自発的に組織・運営されている団体です。

町会や自治会を置かない地域もありますが、どこの地域でも大体町会・自治会といった団体が存在しています。住民たちによる住民たちのための地域生活をより良いものにするために活動を行っています。活動内容については、その地域ごとに多様ですが、バス旅行、盆踊り、運動会、秋祭り等々たくさんのイベントや行事があり、地域住民の交流を深めています。

また、いつ起こるか分からない災害時の防災避難訓練も行い、お互いに助け合う体制作りにも取り組んでいます。

まだ町会・自治会に加入されていない方、これから加入しようと考えておられる方には、是非ご加入されることをおすすめします。

加入方法は町会・自治会の役員までご連絡いただくか、鹿浜区民事務所（TEL03-3853-2301）までお問合せください。

是非ご加入いただき、町会・自治会の交流の場をより一層楽しく広げていこうではありませんか。

（編集委員 坂井 孝夫）

新 校 長 あ い さ つ

今できる最大限のことを

鹿浜第一小学校 校長 なかごおり えいいち 中郡 英一



令和3年4月に西伊興小学校より転任で、まいりました、中郡英一と申します。足立区で生まれ育ち、現在も足立区に住んでおり足立区が大好きです。約30年前に鹿一小で教育実習生としてお世話になりご縁を感じております。

日頃より地域の皆様方には本校の子供たちが大変お世話になり、誠にありがとうございます。コロナ禍で

様々な教育活動に制約がありますが、「今できる最大限のことを行っていく」を念頭において教職員一同頑張っております。引き続き、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。鹿一ブログを毎日更新しております。ご覧になっていただければ幸いです。

地域のお蔭で今の皿沼小がある。 今度は自分たちが！

皿沼小学校 校長 かとう まさひろ 加藤 雅弘



タイトルの言葉は、周年行事の児童集会や記念式典において6年生が表した気持ちです。11月の関連行事に向けて「過去を知り、未来を考える」を教育的ねらいと捉え、各取り組みを進めてまいりました。中でも6年生は、総合の時間に学校や地域の歴史を、インタビューや資料を調べて学んできました。その結果、「今があるのは、当たり前ではなく、卒業生、地域の方々、先生方のおかげである」という認識に至りました。そこに留まらず「お年寄りを支えるなど、皿沼や足立区に貢献したい」との式典における代表児童の言葉には、今度は自分の出番だという力強さもありました。周年

行事が「過去を知り、未来を考える」機会となったことを大変嬉しく思いました。

区内中川小で定年を迎え、本校に再任用でお世話になっております。その年に40周年を迎えるという幸運に恵まれ、地域の方々とも関わりをもつことができました。また、コロナやリモート対応、新学習指導要領の実現に向けてのシフトチェンジなど、一枚岩となって職務に邁進してくれる教職員にも巡り合えて、本当に自分は運がいいなと感じております。加賀保育園・加賀中学校との連携も拠り所として、本校が目指す「顧客は20年後の子供たち」を実現してまいる所存です。



コロナ収束後の学校生活

鹿浜菜の花中学校 校長 ^{おきやま} 沖山 ^{ふさと} 房人



今年度4月に鹿浜菜の花中学校校長に着任した沖山房人です。前任校は、千代田区立神田一橋中学校ですが、勤務した学校のうち、半数が足立区です。

さて、新型コロナウイルスが猛威をふるった一昨年、昨年と、中学校でも多くの行事が中止や延期を余儀なくされました。また、授業や部活動での活動制限もあり、正常な学校生活を送ることができませんでした。特に

本校の行事は大いに盛り上がると思っていたので、その伝統を見られないのは、とても残念です。コロナ収束後は、その伝統の復活に期待し、正常な学校生活のもとの生徒の活躍を、1日でも早く見られることを心から祈るばかりです。

生徒による特別授業を活かす

加賀中学校 校長 ^{もりた} 森田 ^{たくじ} 卓司



江東区大島中学校より加賀中学校に新米校長として着任した森田卓司です。足立区には縁あって十四中以来の勤務です。

加賀中の生徒はとても礼儀正しく真面目な生徒ばかりで、日々、心洗われる思いです。こうした生徒に育ててくださった関係小学校、特に母体校の皿沼小学校との連携教育の成果と受け止めています。

本校の伝統は、保小中の連携に加えて、小規模校のメリットを活かし、学年を超えた縦割りで行事に取り組むことと、生徒会が企画からすべて行う「生徒による特別授業」です。

コロナ禍で実施した運動会では、3年生が下級生に

ダンス指導を行い、特別授業では、今年度の学校スローガン「あじみこし(注)」について取り組みや課題等を生徒間で確認し深めました。今後も、小規模校のメリットを活かしつつも、変えられる部分は大胆に変え、「学んで良かった」「入れて良かった」と顧客満足度が高い学校運営を行ってまいります。ご支援・ご協力、お願いいたします。

(注) …「あじみこし」とは、あいさつ、時間、身だしなみ、言葉遣い、姿勢の頭文字をとったものです。

コロナ禍の舎人公園 公園散歩

冬の舎人公園は、テニスコート、陸上競技場などを散歩する人もまばらで閑散としていました。寒風とコロナが足を遠ざけているのでしょう。

世界で暴れまくっているコロナですが、3月の芽吹く頃には平穏な日常になっているといいですね。冒険の丘、バーベキュー、釣りのできる池、ドッグランなどが「待っていますよー」。桜も小さな蕾をつけていました。毎年見事に咲いている舎人公園名物の千本桜とそれを楽しむ大勢の人たち、こんな景色がまた見られますよう願っています。

(編集委員 江川 せつ子)



▲舎人公園

▲木々の蕾

🔑 オウム対策協へ支援金贈呈

鹿浜地区町会・自治会連絡協議会（鹿浜地区町自連）では、18 町会・自治会会長が集まる会長会議において、足立入谷地域オウム真理教（アレフ）対策住民協議会（オウム対策協）に近隣町会・自治会として支援金を贈呈することを決定しました。

会長会議での決定を受けて、令和3年10月11日に舎人区民事務所で行われた贈呈式には、鹿浜地区町自連から横田夏夫会長・野辺慎一副会長・松村哲男副会長の3名が出席しました。

横田会長から水上久志オウム対策協会長へ支援金の贈呈を行い、オウム対策協の活動に対する支援と、『オウム対策住民協議会ニュース』の発行を通じて鹿浜地区の町会・自治会への情報提供に対する感謝の言葉を伝えました。



▲オウム対策協へ支援金贈呈
（左）水上オウム対策協会長と
（右）横田会長



🔑 女子医大足立医療センターオープン

令和4年1月5日、待望の女子医大足立医療センター（東京女子医科大学附属足立医療センター）が江北4丁目にオープンしました。内科・外科をはじめ34科の診療科名を持つ大病院です。

受診を希望される際には紹介状が必要となるため、かかりつけ医にご相談のうえお申し込みください。

交通機関も都バス（王49、里48-2及び3）、東武（北05、王30、西08）、国際（赤27）、新日本（はるかぜ6号）など大変便利になりました。また、駐車場は217台分のスペースがあります。

取材時に来院していた人にかがうと、「足立区民の長年の夢、大病院設置が、それも江北4丁目という近くにかない、うれしい限りです」と目を輝かせて答えてくれました。

（編集長 野辺 慎一）



▲女子医大足立医療センターの全景

編集後記

▶年賀状。何年も会っていない人からの年に一度の近況を添えた年賀状はうれしいものです。同年代や少し上の人とのやりとりがほとんどです。来なくなると何かあったのではと心配になります。若い人はスマホで新年のあいさつが主流と聞きます。住所を交換して年賀状を出し合っていた時代は終わってしまったようです。時代の風景は変わるということをつくづく感じます。
（副編集長 矢萩 敏隆）

▶コロナ禍も3年目になります。年中行事も自粛ムードで次々に過ぎていきます。その中を第3波だ第6波だとかいわれるコロナウイルスが大手を振って通り抜けます。科学的ではありませんが、古来疫病は流行して3年経つと消えていく

とも言われています。速く年月が過ぎてほしいとも思えてきます。私達は、ワクチンを接種し、不要不急の外出を避け、静かにコロナ禍明けを待つしかありません。不運にも感染した方が多くなりました。なんとか皆で協力して人類の危機を乗り越えたいもの。▶さて、今号はそうしたコロナ禍のなかではありますが、諸行事が粛々と行われました。わたくし達もコロナ禍が明け真に明るい「しかはま」を一日も早く発行できる日を待ちわびています。
（編集長 野辺 慎一）

編集長 野辺慎一
副編集長 矢萩敏隆
委員 江川せつ子、坂井孝夫、豊岡多恵子、
増田寄雄、大滝圭三
事務局 鹿浜区民事務所地域担当係長 合田志津雄